

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 19 年 2 月 1 日 (2007.2.1)

【公表番号】特表 2006-509443 (P2006-509443A)
 【公表日】平成 18 年 3 月 16 日 (2006.3.16)
 【年通号数】公開・登録公報 2006-011
 【出願番号】特願 2004-558617 (P2004-558617)
 【国際特許分類】

H 0 4 B 7/005 (2006.01)

H 0 4 J 13/00 (2006.01)

【F I】

H 0 4 B 7/005

H 0 4 J 13/00 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 12 月 11 日 (2006.12.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

無線チャネルによる悪影響を軽減するように配置され、かつ構成される等化器であって、
 入力信号に接続され、出力結合器に接続される遅延回路を備える遅延ラインであって、
 中間信号を供給するように動作する遅延ラインと、

前記遅延ラインに接続され、チャネル・パラメータの推定値に対応するスケール・ファクタに従ってスケーリングされる硬判定値を備えるフィードフォワード信号を供給するように動作するフィードフォワード回路と、を備え、

前記出力結合器は、前記フィードフォワード信号及び前記中間信号を結合することにより、前記入力信号に対して遅延され、かつ前記無線チャネルが前記入力信号に与える悪影響が補償された出力信号を供給するように動作する、等化器。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の等化器において、前記フィードフォワード回路は、さらに、前記遅延ラインに接続され、前記遅延回路に対する入力における信号の極性に対応する硬判定値を供給するように動作する回路と、前記極性に前記スケーリング・ファクタを関連付けて、前記フィードフォワード信号を供給するように動作するスケーリング回路とを含み、前記出力結合器は、前記出力信号として、前記フィードフォワード信号及び前記中間信号の線形結合を供給する加算器である、等化器。

【請求項 3】

請求項 1 に記載の等化器であって、さらに、前記遅延ラインに接続され、チャネル・パラメータの推定値に対応する別のスケール・ファクタに従ってスケーリングされるフィードバック信号を供給するように動作するフィードバック回路を備え、前記遅延ラインは、さらに、前記フィードバック信号と前記入力信号とを結合して、前記遅延回路に対する入力において信号を供給するように動作する入力結合器を含む、等化器。

【請求項 4】

受信機において等化処理を行なって、受信信号に対して無線チャネルによりもたらされる悪影響を軽減する方法であって、

入力信号に対応する信号を遅延機能により遅延させることによって、中間信号を供給す

ること、

前記信号に対応し、チャネル・パラメータの推定値に対応するフィードフォワード・スケール・ファクタに従ってスケーリングされる硬判定値を備えるフィードフォワード信号を供給すること、

前記フィードフォワード信号及び前記中間信号を結合することにより、前記入力信号に対して遅延され、かつ前記無線チャネルが前記入力信号に与える悪影響が補償された出力信号を供給すること、

を備える方法。

【請求項 5】

無線チャネルによる悪影響を軽減するために設けられた等化器であって、

判定フィードバック・プロセスに基づいて、入力信号を調整し、該調整された入力信号を中間信号として供給する判定フィードバック等化器と、

前記中間信号を受信して遅延させることにより、遅延フィードフォワード信号を供給し、判定フィードフォワード・プロセスに基づいて、前記遅延フィードフォワード信号を調整して、調整フィードフォワード信号を生成して、出力信号として供給する判定フィードフォワード等化器と、

を備える等化器。